

令和 5 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 学務部学生課

申請組織長 役職名 学生課長 氏名 高木康男

統括責任者 役職名 学生課長補佐 氏名 武田智登世

課題名 学生サポーター制度の活動補助

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	武田智登世	学生課長補佐	総括
		加治瞳美	学生課職員	学生サポーター支援担当
		森田美恵 高橋有沙	学生課職員 学生課職員	学生サポーター支援担当 学生サポーター支援担当

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

学生サポーターは 2016 年度から活動を開始し、当初はピアカウンセラーの有資格者又は「ピアサポートの理論と実践」の受講者によるピアサポートに限定した活動であったが、2018 年度から図書館利用支援、キャリア支援、受入留学生支援の活動を加えて学生サポーター制度としての活動をスタートした。学生サポーター制度は、学生自ら参加し、大学生生活の不安を解消したり、各種活動を支援するなど、学生による学生のためのサポート活動であり、活動内容は、新入生に対する大学生生活への質問対応や受入交換留学生へのサポートのほか、さまざまなイベントを企画し運営を行う。活動を通して学生同士で支え合うなど、学年をこえた交流を図ることもできる。同じ学生だからこそ分かり合える悩みを一緒に解決することで、支援を必要とする学生とサポートする学生の両方が成長できる制度である。2018 年度より活動を継続しているが、2020 年からのコロナ禍においてはオンラインでの活動に限定された。昨年度後期よりコロナ以前の活動を再開し、今年度は昨年度同様に活動することを計画した。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

本事業は、学生課の学生支援担当者と学生サポーターが打ち合わせを重ね、具体的な活動内容を計画する。以前活動拠点としていた学園センター1階学生控室が利用できなくなったため、隣の英会話教室用の空室を借りて打ち合わせ等を実施する。今年度の活動としては、①キャンパス内での挨拶とPR活動 ②何でも相談「ピア・カフェ」の開催 ③学生交流イベント (スポーツイベント、留学生カフェ、留学生との研修合宿交流会など) ④他大学のサポーターとの交流 ⑤ピアサポートに関する講演会、(自己啓発) 研修会の参加、他大学との交流、視察を実施することを計画した。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

学生サポーターにとっては、自分たちで考えて行動したり、企画・立案をしたりする中で課題発見や解決などの能力の育成につながった。

新入生にとっては、教員・職員のみならず、先輩学生のサポートを受けることによって、入学後の不安が軽減・解消され、大学生活に早くなれることができる。また昨今の学生の交流において交流範囲の狭さがよく見受けられることに加え、コロナ禍に対面でコミュニケーションを取る機会が激減したのが現在の大学生であるが、本事業の推進により学生同士の交流の機会を増やし、学部・学年・人種の垣根を超えた横断的な関係性を築くことができた。このことから、視野を広げた新たな人間関係の中での自分の居場所を見つけられることもあったと思われる。

留学生にとっては、留学生サポーターズが企画した各種イベントを通じて、授業や国際交流センターが提供する機会（スタディメイト活動など）以外で日本人学生との交流を深める機会になった。実際にこういった機会に仲を深めた学生同士で勉強や大学生活に関わることについて学内外を問わず教え合ったりサポートしあったり、私的に遊びに行ったりしている報告を受けている。中には交流を通じて交換留学を決意した学生もいる。留学生にとっては日本・相山での生活に慣れる一助になり、日本人学生にとっては国内にいながら国際交流について考える機会になるなど、留学生と日本人学生の双方にとって効果があったと言えるのではないかと思われる。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

- ・ライブラリーサポーターとピアキャリアについては、学生の参加者数は安定しているが、ピアカフェや留学生サポーターズは、コロナ禍において活動が縮小したこともあり、参加学生数が多くないため、来年度以降の参加者を増加させる方策として、PR活動を継続して実施する。まず、入学式に実施する課外活動紹介で新入生に向けてピアカフェ活動のPRを行う。
- ・ピアカフェについては後期は全く活動しなかったため、来年度は1年間を通して活動を行いたい。
- ・留学生サポーターズについては、課外活動団体(SAIC)からの活動形態の変更および新型コロナの影響による留学生の減少により、昨年度までは十分な活動を行えたとは言えない状況だった。しかし、今年度前期からは留学生サポーターズの立て直しを図ったり、留学生数が増加してきたことにより、今年度後期からは満足できる程度の活動は行えた。ただ、このように活動できた背景には中心となって活動している学生の存在が大きかったため、今後の代替わりを念頭において活動方法を検討していく。また、全学的に留学生の存在を認知してもらい国際交流を加速させていくためにも、今以上に幅広い学部からイベントに参加してもらえるようにPR活動を継続して実施する。